

佳作

65年後の自分へ

宮城県登米市立豊里中学校

3年 瀧本 あすか

65年後の自分へ。お元気ですか。あなたは今、80歳ですね。今の私は15歳です。今の私には80歳のあなたを想像できません。どんな人生をたどったのですか。今はどんな生活をしているのですか。どんな顔ですか。たくさん笑って、しわでいっぱいですか。そうだといいです。他にも聞きたいことが山のようにあるのですが、とりあえずこのくらいにしておきましょう。さて、あなたは15歳の自分を覚えていますか。中学3年生です。部活を引退し、高校受験に向けて勉強を頑張っています。少し大変だけど、毎日がとても幸せです。思い出してきたでしょうか。そんな私からあなたに伝えておきたいことがあります。

まずは、いくつになっても感謝の気持ちを忘れないでほしいということです。今あなたは80歳にもなり、きっとたくさんの人に助けられて生きているはずです。ちゃんと、一つ一つのことにお礼を言えていますか。あなたの一番好きな言葉は「ありがとう」でしたよね。人だけでなく、身の周りにあるものや、生きていられることにまで、素直に感謝してほしいです。

ところで「素直」といえば、あなたのおばあちゃんのことを覚えていますか。お世辞にも素直とは言えませんでしたよね。健康のために散歩に行こうとか、みんなの耳が悪くなっちゃうからテレビの音量下げてとか言っても、頑固に言うことを聞いてくれません。あなたはそんな素直じゃないおばあちゃんになっていませんか。なっていないと信じていますが、もしなっていたら思い出してください、孫の気持ちを。みんな、あなたのために言ってくれているのです。このことを絶対に忘れないでください。

もう一つは、できるだけ長生きをしてください。というか、そもそも80歳のあなたは生きているのでしょうか……この手紙を読んでいるということは生きていますね。偉いです。上から目線ですみません。でも、本当に誇りを持ってほしいです。自分を褒めてあげてください。今の私の周りの大人たちは、みんな口を揃えて長生きはしなくていいかなあなんて言います。年を取るにつれ、そう思うようになるのかもしれませんが、できるだけ長生きしてほしいです。どこかしら痛いだとか、しんどいとかあると思いますが、生きていれば必ずいいことがあります。そして、誰かきっとあなたに生きていてほしいと思ってくれている人がいます。私だって素直じゃなくてもおばあちゃんに長く生きていてほしいと思いますよ。だから、生きられるだけ一生懸命生きてください。た

った一度の私とあなたの人生なのですから。

最後に、あなたは今さみしいですか。多分、さみしいですよ。将来が怖いですよ。それは今の私も同じです。でも、私はある人の言葉を頼りに生きています。それは、中学校の部活のコーチが引退時に話してくれた言葉です。

「どんなにさみしくても、つらくても、あなたは決して一人じゃないよ。」

もし忘れていたのなら、思い出してください。絶対に助けになってくれる言葉です。覚えておいてください。

長々と偉そうに語ってしまいましたが、今の私が 80 歳のあなたに伝えたかったことは伝わったでしょうか。長い人生を経て、今の私とは大きく価値観が変わり、時代というものも変わったことでしょう。でも、先ほど言ったことはどんな状況になろうと忘れないでください。約束です。その代わりに、私はあなたの納得いく人生を歩むことを約束します。多少の失敗は許してください。とはいっても、実は将来が不安で不安でたまりません。もし私がちゃんとやれていて、これから先の人生も全うできているのであれば、教えてください。15歳の私と80歳のあなた、案外仲良くできそうですものね。お会いしてみたいです。もし、あなたの時代にタイムマシンなんかがあるのでしたら、ぜひいらしてください。

さて、長くなってしまいましたがこれで本当に最後です。この手紙をあなたが微笑みながら読んでくれたことを願います。65年前の自分より。